

令和9年にリニューアルオープンする県文化会館(画像は全て県提供)



# 音楽の殿堂へ

令和9年オープン目指し

## 県文化会館リニューアル

### 音楽小ホールやカフェ新設

### 国際ホールは利便性を向上

同館は昭和43(1968)年に完成。オーケストラの音楽演奏などが開催される国際ホールををはじめ、展示場や会議室、また、県立図書館も併設した県内最大の多目的ホールとして利用されていた。

しかし平成11(1999)年になると、同市三条宮前町に100年会館が建設され「県内最大」を譲る形に。さらに同17(2005)年、同市大安寺西の県立図書館完成に伴い、県立図書館の県立図書館が閉館した。

今回の整備は、建物が耐震改修の必要性があること、時代に即した文化会館の活用へリニューアル。音楽系を軸とした多彩な舞台芸術の殿堂を目指す。

館内に新設されるのは、音楽小ホールと音楽練習室、カフェの3点。小ホールと呼ばれる集

会場のような場所は以前からあったが、今回新設するのは約350席の音にこだわり、動画配信ルートの整備なども行う、本格的な音楽ホールになる。

既存の国際ホールは、利便性向上のため席周りのスペースを確保し、約1300席から約1100席に減らし、音響整備を各段に向上させる予定。

また県は今年2月に、プロオーケストラ集団のジャパン・ナショナル・オーケストラ株式会社(奈良市大宮町・反田恭平代表取締役社長)と同館の活用促進に関する覚書を締結。5月には、世界的に活躍するピアニストで同社社長の反田さんが芸術監督に就任。新しいホールの音響への助言や、運営に携わるなどしていくという。

## 県民が世界トップレベルの演奏に接する機会創出



エントランス・アトリウム



国際ホールのイメージ



音楽拠点にすると共に、多くの人が集まる県文館へ

